

2 0 2 1 年 度

事 業 報 告 書

学 校 法 人 洗 足 学 園

～ 目 次 ～

法人の概要

1. はじめに	1
2. 基本情報	1
(1) 名 称	1
(2) 住所等	1
3. 建学の精神	2
4. 学校法人の沿革	2
5. 設置する学校・学部・学科等	3
6. 学校・学部・学科等の学生数の状況	3
7. 収容定員充足率	4
8. 役員の概要	4
9. 評議員の概要	5
10. 教職員の概要	6
11. その他	6
(1) 系列校の状況	6

事業の概要

1. 主な教育・研究の概要	7
(1) 卒業の認定に関する方針	7
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針	8
(3) 入学者の受入れに関する方針	9
2. 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	11
(1) 2020年度－2024年度中期計画の進捗・ 達成状況について	11
(2) 2021年度事業計画の達成状況について	11

財務の概要

1. 決算の概要	20
(1) 貸借対照表関係	20
(2) 資金収支計算書関係	21
(3) 事業活動収支計算書関係	22

2. その他	23
（1）有価証券の状況	23
（2）借入金の状況	24
（3）学校債の状況	24
（4）寄付金の状況	24
（5）補助金の状況	24
（6）収益事業の状況	24
（7）関連当事者等との取引の状況	24
（8）学校法人間財務取引	24
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、 今後の方針・対応方策	24

法人の概要

1. はじめに

1923年、関東大震災のわずか2ヶ月後、洗足学園は、女性の「自立」を支える教育の必要性を感じた前田若尾が、自宅の2階8帖2間を教室に開放した私塾として産声をあげました。大正デモクラシーによって女性の社会進出が広がる中で、多くの賛同者の力添えを得た前田若尾は、翌1924年に自宅の敷地内に新たに校舎を建て、当時女性が天職を得るために最も近道であった、裁縫を学ぶための女学校を設立したのです。

前田若尾が掲げた「理想高遠、実行卑近」の言葉通りに、その遺志を継いだ前田豊子は、若尾の死の翌年、1948年に空襲によって焼け野原となった川崎市の校地に高等学校と幼稚園を、さらに1949年には小学校を開校しました。1924年の創立当初は、わずか6名の生徒だった女学校が、90年余を経て、現在では幼稚園から大学院までを擁する総合学園となり、園児、児童、生徒、学生総数5,058名を数えるまでに発展してきた洗足学園の歴史は、まさに「挑戦」の連続でした。

洗足学園の建学の精神のもう一つの柱は「奉仕」です。十字架につけられる前夜、最後の晩餐の席を前にして、キリストは十二人の使徒たちの足をひとりひとり洗い、こう命じました。「主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた互いに足を洗わなければならない」（新約聖書ヨハネによる福音書第十三章）。敬虔なクリスチャンだった前田若尾は、校名を「洗足」と定め、この教えにこめられた「奉仕」の精神を養い、社会貢献に取り組むことを洗足学園の理想としたのです。

洗足学園はこの「自立」「挑戦」「奉仕」の精神の下、絶えず変化する社会の要請に応えるべく学校教育に邁進しております。

2. 基本情報

(1) 名 称

学校法人洗足学園（1951年3月9日認可）

(2) 住所等

神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先：soumu@senzoku.ac.jp

HPアドレス <https://www.senzoku.jp/new/index.html>

3. 建学の精神

若き学徒をして、
 真の人生の目的に目覚めさせ、
 さらに人間の天職を悟らせ、
 謙虚にして
 慈愛に充ちた心情（謙愛の徳）を養い、
 気品高く、かつ実行力に
 富む有為な人物を育成する。

また、実践標語として「理想高遠 実行卑近」を掲げている。

4. 学校法人の沿革

1923 年（大正 12 年）	11 月	創立者前田若尾の自宅 2 階を私塾として開放
1924 年（大正 13 年）	1 月	自宅敷地内に校舎を建築し、洗足学園を創立
1926 年（大正 15 年）	5 月	洗足高等女学校設立認可 同日開校
1930 年（昭和 5 年）	10 月	財団法人洗足高等女学校 設立認可 以降設置者となる
1946 年（昭和 21 年）	6 月	川崎市久本に移転
1947 年（昭和 22 年）	4 月	学制改革により洗足学園女子中学校 設置認可 同日開校
1948 年（昭和 23 年）	3 月	洗足学園女子高等学校 設置認可
		洗足学園幼稚園 設置認可
	4 月	洗足学園女子高等学校 開校、洗足学園幼稚園 開園
1949 年（昭和 24 年）	12 月	洗足学園小学校 設置認可
	1 月	財団法人洗足高等女学校が財団法人洗足学園と改称
	4 月	洗足学園小学校 開校
1951 年（昭和 26 年）	3 月	財団法人洗足学園が学校法人洗足学園と改称
1953 年（昭和 28 年）	3 月	洗足学園第一高等学校（～2008 年 3 月）、洗足学園第二中学校 設置認可
	4 月	洗足学園第一高等学校、洗足学園第二中学校 開校
	4 月	洗足学園女子高等学校を洗足学園第二高等学校、洗足学園女子中学校を洗足学園第一中学校と改称
1962 年（昭和 37 年）	1 月	洗足学園短期大学 設置認可
	4 月	洗足学園短期大学 開学
1965 年（昭和 40 年）	4 月	洗足学園短期大学幼児教育科、英文科 開設
1967 年（昭和 42 年）	1 月	洗足学園大学 設置認可

1967年（昭和42年）	4月	洗足学園大学 開学
1971年（昭和46年）	4月	洗足学園大学音楽専攻科 開設
1980年（昭和55年）	1月 4月	洗足学園魚津短期大学 設置認可 洗足学園魚津短期大学 開学（～2002年3月）
2000年（平成12年）	4月	洗足学園大学大学院音楽研究科 開設
2002年（平成14年）	4月	洗足学園大学附属第一高等学校を洗足学園第一高等学校、洗足学園大学附属高等学校を洗足学園高等学校、洗足学園大学附属中学校を洗足学園中学校、洗足学園大学附属小学校を洗足学園小学校とそれぞれ改称
2003年（平成15年）	4月	洗足学園大学を洗足学園音楽大学と改称
2010年（平成22年）	4月	洗足学園短期大学を洗足こども短期大学と改称

5. 設置する学校・学部・学科等

① 洗足学園音楽大学

大学院（1999年12月22日認可）

音楽研究科

器楽専攻、声楽専攻、音楽教育学専攻、作曲専攻

音楽学部（1967年1月23日認可）

音楽学科

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 daigaku@senzoku.ac.jp

② 洗足こども短期大学（1962年1月20日認可）

幼児教育保育科（1965年1月25日認可）

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 tandai@senzoku.ac.jp

6. 学校・学部・学科等の学生数の状況

（2021年5月1日現在）

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
洗足学園音楽大学	大学院音楽研究科	64	82	110	158
	音楽学部	530	640	2,070	2,279
洗足こども短期大学	幼児教育保育科	250	310	550	589

7. 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
洗足学園音楽大学	1.08	1.08	1.08	1.07	1.10
洗足こども短期大学	1.09	1.12	0.99	0.93	1.07

8. 役員の概要

理事 定数5～9名 現員9名

監事 定数2名 現員2名

理 事

2021年5月1日現在

氏名	選任条項	就任年月日	常勤/非常勤	備 考
万代 晋也	第6条第1項第1号	1999年4月1日	常勤	
吉田 英也	第6条第1項第1号	2011年6月1日	常勤	
宮阪 元子	第6条第1項第1号	2016年4月1日	常勤	
落合 俊文	第6条第1項第1号	2018年4月1日	常勤	
吉田 和之	第6条第1項第2号	2003年4月1日	常勤	常任理事
熊谷 剛英	第6条第1項第3号	2011年6月1日	非常勤	学外者
前田 壽一	第6条第1項第4号	1985年6月17日	常勤	理事長
井田 光政	第6条第1項第4号	2019年4月1日	非常勤	学外者
前田雄二郎	第6条第1項第4号	2020年4月1日	常勤	

監 事

2021年5月1日現在

氏名	選任条項	就任年月日	常勤/非常勤	備 考
前田 隆芳	第7条第1項	2017年10月1日	非常勤	学外者
鈴木 裕子	第7条第1項	2018年9月14日	非常勤	学外者

役員賠償責任保険制度への加入

私大協役員賠償責任保険に継続加入することを理事会にて審議・可決いたしました。

団体契約者 日本私立大学協会

被保険者 理事、監事及び評議員

契約期間 2021年4月1日より1年間

保険期間中総支払限度額 10億円

補償内容 被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金および争訟費用の損害を補填

9. 評議員の概要

評議員 定数 11～19 名 現員 19 名

評議員

2021 年 5 月 1 日現在

氏名	選任条項	就任年月日
小嶋 貴文	第 22 条第 1 項第 1 号	2018 年 4 月 1 日
前田英三郎	第 22 条第 1 項第 1 号	2020 年 4 月 1 日
田中 友樹	第 22 条第 1 項第 1 号	2021 年 4 月 1 日
田中 純子	第 22 条第 1 項第 2 号	2018 年 9 月 1 日
前田 壽一	第 22 条第 1 項第 3 号	1980 年 5 月 28 日
万代 晋也	第 22 条第 1 項第 3 号	1997 年 1 月 1 日
吉田 和之	第 22 条第 1 項第 3 号	1999 年 4 月 1 日
井田 光政	第 22 条第 1 項第 3 号	2007 年 6 月 1 日
落合 俊文	第 22 条第 1 項第 3 号	2010 年 4 月 1 日
前田雄二郎	第 22 条第 1 項第 3 号	2011 年 4 月 1 日
吉田 英也	第 22 条第 1 項第 3 号	2011 年 6 月 1 日
宮阪 元子	第 22 条第 1 項第 3 号	2016 年 4 月 1 日
嘉納 毅人	第 22 条第 1 項第 4 号	1993 年 6 月 1 日
稲田 拓	第 22 条第 1 項第 4 号	2000 年 4 月 1 日
神原 陸男	第 22 条第 1 項第 4 号	2008 年 4 月 1 日
熊谷 剛英	第 22 条第 1 項第 4 号	2011 年 6 月 1 日
河地 良智	第 22 条第 1 項第 4 号	2016 年 4 月 1 日
黒木 正郎	第 22 条第 1 項第 4 号	2019 年 4 月 1 日
清田千壽子	第 22 条第 1 項第 4 号	2019 年 4 月 1 日

10. 教職員の概要

2021年5月1日現在

教職員/本務兼務区分		人 数	平均年齢
教 員	本務教員	192	47.1
	兼務教員	1,142	48.1
職 員	本務職員	73	48.7
	兼務職員	95	37.1

11. その他

(1) 系列校の状況

① 洗足学園高等学校 全日制課程 普通科 クラス数 18 現員数 706 名

② 洗足学園中学校 クラス数 18 現員数 771 名

(併設型中高一貫校)

高等学校(1948年3月10日認可)

中学校(1953年3月31日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 ao@jh-staff.senzoku.ac.jp

③ 洗足学園小学校 クラス数 12 現員数 459 名

(1948年12月25日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 syo-jimu@senzoku.ac.jp

④ 洗足学園大学附属幼稚園 クラス数 6 現員数 133 名

(1948年3月25日認可)

所在地 神奈川県川崎市高津区久本二丁目3番1号

連絡先 kg-office@senzoku.ac.jp

事業の概要

1. 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

<大学>

本学は所定の在学年数を満たし、本学が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し卒業した者を、建学の精神を体現し、十分な専門的知識や技能及び汎用的能力を身に付けた人間性豊かな人材と認め、学士（音楽）の学位を授与する。

【音楽学部】

- ①自らの専門分野に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。（専門性・専門実技）
- ②社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。（多様性の尊重）
- ③自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。（協働する力）
- ④自らの専門分野である音楽を通して、社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。（社会貢献・実践的態度）
- ⑤論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。（論理的思考力・問題解決力）

<大学院>

本学大学院は所定の在学年数を満たし、音楽研究科が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（音楽）の学位を授与する。特定の課題については、修了演奏若しくは修了作品及び副論文をもって充てることができる。

【音楽研究科】

- ①自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。（専門性・専門実技）
- ②社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。（多様性の尊重）
- ③自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。（協働する力）
- ④国際社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。（社会貢献・国際貢献・実践的態度）
- ⑤論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。

（論理的思考力・問題解決力）

- ⑥社会における自らの専門分野の意義と役割を理解し、専門家として主体的で創造的な研究活動を継続することができる。（プロフェッショナル）

<短期大学>

本学の教育理念、教育目的に基づく教育課程の学修により、卒業に必要な所定の単位を修得し以下に示す要件を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「実践力」、「表現力」、「協働力」を備えたものとして、短期大学士（幼児教育保育）の学位を授与する。

①（保育者としての自覚）

豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任感を有している。

②（専門的知識および技術）

幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している。

③（創造的な表現力および展開力）

創造的な表現力を身に付け、保育活動を豊かに展開する力を備えている。

④（柔軟な保育実践力）

幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている。

⑤（社会性および協働意識）

社会人および保育者として必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる。

⑥（倫理観と地域貢献への意欲）

高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している。

（２）教育課程の編成及び実施に関する方針

<大学>

（教育課程編成の方針）

- ①教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
- ②教育課程の編成に当たっては、深く専門の学芸を教授し、その応用的能力を展開させるとともに、幅広く深い教養及び実行力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

（教育課程実施の方針）

- ③「卒業認定・学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・技能等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかについて、学生が理解しやすいように配慮する。
- ④学生の主体的で活発な学修意欲を促進する立場から、社会的実践の機会を積極的に設定する。
- ⑤成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の主題・到達目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、総合的・多面的な成績評価を実施する。

＜大学院＞

（教育課程編成の方針）

- ①教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。
- ②教育課程の編成に当たっては、専門分野に関する高度な専門的知識、演奏・表現能力あるいは研究能力を修得させるよう適切に配慮する。

（教育課程実施の方針）

- ③「修了認定・学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかについて、学生が理解しやすいように配慮する。
- ④学生の主体的で活発な学修意欲を促進する立場から、社会的実践の機会を積極的に設定する。
- ⑤成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の主題・到達目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、総合的・多面的な成績評価を実施する。
- ⑥修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

＜短期大学＞

（教育課程編成の方針）

入学から卒業までの2年間の教育課程において、基礎的及び専門的知識・技術を段階的に習得できるように講義・演習・実習を有機的に配置し、以下の方針でカリキュラムを編成する。

- ①豊かな教養と保育の専門的な知識・技術を身に付けることのできるカリキュラム
- ②幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得できるカリキュラム
- ③創造的な表現力、コミュニケーション力の向上が図られるカリキュラム

（教育課程実施の方針）

学修過程については、洗足こども短期大学の実践標語である「理想は高遠に、実行は卑近に」に基づき、学生が高い意欲のもと真摯に努力することができるよう全科目をカリキュラムマップとして提示し、主体的な学びへの一助とする。学修の内容・方法については以下の点に配慮をする。

- ①保育に必要な表現力とコミュニケーション能力の向上を重視し、その実現を図るために、学校行事、音楽検定及び実習と各授業科目との関連性に配慮する。
- ②保育者としての責任を自覚し、保育実践を自ら反省し改善していく自己研鑽力の向上が図られるよう配慮する。

（3）入学者の受入れに関する方針

＜大学＞

本学は、「理想高遠 実行卑近」を建学の精神とし、「主体的な学び」を実践することで、豊かな人間性と実行力を備え自立した人間を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、音楽の探求により、高い芸術性、専門分野の知識・技術を修得するとともに、自ら

の演奏・表現能力を高める意欲を持つ人材を、広く求めます。

【音楽学部】

- ①基本的な演奏技術・表現技法を有し、将来的にプロフェッショナルを目指す人材、及び音楽を深く愛し、自己の研鑽に意欲的である人材。
- ②主体的に学ぶ姿勢を持ち、世界の様々な地域、民族、時代の音楽を受容し、理解しようとする人材。
- ③仲間とともに数多くの演奏会・公演の企画・運営・実施に参加し、実践を通して実社会への適応力、問題解決力、コミュニケーション能力を習得しようとする人材。
- ④音楽に対する強い情熱と感動を持ち、指導者として必要な知識・技術・人間性を身に付けようとする人材。

<大学院>

本学大学院は、音楽の理論及び応用を教授研究し、深奥をきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、文化の向上に寄与することを人材養成及び教育研究上の目的としています。この人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、大学4年間で培った専門性・専門実技、多様性、協働する力、社会貢献・実践的態度、論理的思考力・問題解決力を更に研鑽し、揺るがぬ強い信念を持ち、自分自身の目標を達成するための挑戦を続ける意欲、能力のある人材を求めています。

<短期大学>

本学は、建学の精神に基づき、豊かな人間性と実行力を備えた保育者を養成しています。専門的知識と技術の修得に必要な基礎学力を備え、保育者になるという夢の実現に向けて強い意志を持って努力できる人を求めています。

具体的に求める人物像は以下の通りです。

- ①保育者として社会に出て自立して活動することを目指し、そのために必要な教養と専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけるための熱意と向上心があり、主体的に努力することができる人。
- ②自分の意見を発信することができる一方で異なる多様な意見も尊重し、他者と明朗活発にコミュニケーションを図りながら協力して授業や行事に取り組むことができる人。
- ③子どもと子どもを取り巻く社会や文化に関心を持ち、自らの問題意識に基づいて積極的に探求を行い、読む・書く・聴く・話す力、および創造的な表現力を主体的に身につけることができる人。
- ④保育者としての自覚と責任感を持つことを意識し、多様な環境に順応できるように努め、心身の健康管理に留意できる人。

2. 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

(1) 2020年度－2024年度中期計画の進捗・達成状況について

「学校法人洗足学園2020年度－2024年度中期計画」は「学園創立100周年及びその先の未来に向けて」をVISIONとして、基本方針を全てのステークホルダーのために永続的に存続する学園を目指し3つの目標を設定しております。

- ①学生・生徒・児童・園児本位の教育を実現し、真の学力形成を目指します
- ②学生・生徒・児童・園児のみならず保護者、地域社会の期待に応える教育・研究を実現し「選ばれる学校」となります
- ③安定した財務基盤を保ち、教育資源へ積極的な投資を行います

目標①の進捗として、学園の設置する各学校では、真の学力形成を目指すためICTを最大限活用し、新型コロナウイルス感染拡大期におきましても対面・オンライン授業を併用し教育・研究活動を継続してまいりました。目標②の進捗として、大学・短期大学では社会に有意義な人材を輩出し、中学校・高等学校、小学校では保護者の期待に応える進学実績を実現、幼稚園におきましてもサイエンスや英語教育を実施するなど保護者の期待に応える教育・研究に取り組み、各校とも募集状況も順調となっております。目標③につきましては、予算を統制しつつ、2020・21年度ともに経常収支は収入超過となり、更に長期において引当特定資産の繰入を計画するなど、学園創立100周年及びその先の未来に向けて安定した財政基盤の維持に取り組んでおります。

各学校の教育活動に係る計画の進捗につきましては、事業計画の達成状況に記載しており全体として概ね順調に推移しておりますが、人事政策における事務職員のデジタル技術対応に関する研修の体系化につきましては、今後も継続して検討してまいります。また、国際交流イベントや留学プログラム等につきましても、新型コロナウイルスの影響を受けて停滞を余儀なくされておりますが、再開に向け体制を整えております。法令遵守のため2024年度末を目標としておりましたガバナンス・コードにつきましては、2021年度に制定いたしました。

(2) 2021年度事業計画の達成状況について

「2021年度 学校法人洗足学園事業計画」につきましては、各学校で新型コロナウイルスへの対応方針を策定し、方針に基づき教育・研究活動を実施しております。大学、短期大学をはじめとする各校等の達成状況は以下のとおりとなっております。

<洗足学園音楽大学>

①新型コロナウイルス感染症対策

感染対策の基本となるマスクの着用を徹底し、消毒用アルコール及び次亜塩素酸水を使い消毒作業に努め、換気を行うなど、感染対策を講じました。更に、より感染対策が必要となる音楽活動においては、PCR検査・抗原検査を活用し、サーキュレーター、UV除菌機を導入、また、移動式大型アクリル板等を設置し対面での活動に努める一方、語学や音楽史な

どの講義については、その特性より、オンデマンド形式にて授業を行い、常に学生からヒアリングを行い、高い支持を得つつ、ウィズコロナに対応した教育活動に取り組んでまいりました。

②教育DXとIT機器の整備

学生が新たなビジネスモデルを探究すべく、アンサンブルシティC603教室を、最先端の機器を備えたスタジオとして学生に開放し、学生向けにYouTubeコンテスト、Instagram COMPETITIONを開催、その他、ITを活用した「イヤコン」などデジタル技術を用い、既存モデルの変革に向けた取り組みを模索しております。また、これら教育DXを支えるのに必要となるネットワークインフラ等につきましても、計画的に更新し、動画配信等大容量データの送受信に対しても、安定した通信速度を確保しております。

③奨学金制度の充実と高等教育修学支援制度の継続

これまでの前田記念奨学金に加え、音楽・音響デザインコース、音楽環境創造コースの学生に高機能なコンピュータ購入費用の一部を補助する奨学金制度も創設し、学生支援を強化しております。更に、高等教育修学支援制度につきまして、対象機関となるよう継続申請し、家計急変者も含め受給対象者の日本学生支援機構への申請を支援し、学生の学びの継続に向け対応いたしました。

④留学生支援・国際化対応

大学・大学院において多くの留学生が修学し国際色豊かになり、学内のコンクールなども活性化しておりますが、これら留学生の学修環境をより良くするため、留学生用窓口を設置し、また、コミュニケーションを広げる場として、学外に留学生サロンを開設すべく準備を進めてまいりました。同時に国際化をはかるため、SNSを活用し大学のイベントやニュースを投稿し情報発信に努め、オンラインでのアフレコ大会を開催するなど中国を中心としたアジア地域に学生募集の門戸をより広げて活動しております。

また、海外研修旅行につきましては従来通りに実現することが困難でありましたが、オンラインにて海外の著名な音楽家のレッスンを受ける機会を設けるなど対応いたしました。

⑤新たな生活様式における演奏会の実施

2021年度の演奏会につきましては、新型コロナウイルス感染防止対策として公益社団法人全国公立文化施設協会の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを参考として大学独自に策定したガイドラインに沿って243公演を開催いたしました。ガイドラインでは観客数を定員の半数以下に制限し、全公演とも座席指定とし、舞台上での演奏者間のディスタンスを配慮するなど可能な限り感染防止対策を行ったうえで演奏会を実施し、更にミュージカル、声楽、ダンス、バレエ、吹奏楽、オーケストラ等の演奏会では、公演前にPCR検査を実施しクラスター発生を回避いたしました。

また、観客用の新型コロナウイルス感染防止対策といたしましては、接触感染防止の観点か

らチラシ、プログラムにつきましてはネットワーク上にデータを置き、観客が自らダウンロードして入手する方式に移行し、チケットにつきましても民間の電子チケット発行システムを導入して、それぞれペーパーレス化への移行を図るなど、可能な限りの対策を講じてまいりました。

演奏会につきましては、入場制限が行われている中、より多くの方に聴いてもらうためYouTubeを利用して演奏会の配信・アーカイブを積極的に実施いたしました。

⑥大学新校舎建設計画について

音楽・音響デザインコース、音楽環境創造コース等の学修に対応した専門的な施設設備を備えた演習室、実習室を設置するほか、映像と音楽の融合をテーマとした新コースに相応しい音響スタジオや映像と音楽を融合しWEBで発信が可能な撮影スタジオ等、最新の映像撮影、映像編集、音響制作の機能を有した演習室を備えた新校舎の建設基本計画を策定いたしました。今後は基本設計、実施設計を行い、2023年12月末までの竣工を目指します。

⑦収容定員増加に向けて

大学の志願者については、声優アニメソングコース、音楽環境創造コースなど、近年新たに設けたコースの志願者数が社会的な需要を背景に増加しています。また、ミュージカルコースや音楽・音響デザインコースも多くの志願者を集め、他の設置する各コースにおいても安定した志願者数を確保しています。今後は更に映像と音楽の融合をテーマに多角的なメディア制作を修得し、メディア制作に関するプロフェッショナルな技術と見識を持つ人材を育成することを目的として「メディアアーツコース」を新たに開設し、より多くの人材を輩出し社会の要請に応えつつ、定員管理を適正に行っていくことを目的に2023年度から入学定員を現在の530名から590名と60名増員することを目指し、学則変更の認可申請を行いました。

⑧大学事務組織の改組

大学事務組織の①主体的、機動的な改革の推進、②教育研究機能の充実、③教員との連携協力関係の確立、④業務の専門性や効率性の向上を目指し、これまでの事務局長室、学務部を合わせた教学センターを設置し、企画、学事、教務、教職、学生生活に対応するよう改組いたしました。また、大学事務局長が組織する各部署の単位を「センター」に統一するため、国際交流部は国際交流センター、IT統括部はICTセンターに名称変更することとし、合わせて事務分掌の見直しを行いました。

<洗足こども短期大学>

①新型コロナウイルス感染症への対応

短期大学では「ウィズコロナ対応とポストコロナを見据えた取組の実施」を方針として掲げ、基本的な対策として教室内のレイアウト変更により学生間の距離を確保し、併せて各教室へのパーティション設置及びキッズスクウェア入口への体温検知端末を設置し、原則対面

での授業を実施しました。感染が急拡大した後期においては、全15回の授業のうち最後の2回をオンライン授業に切り替えて実施し、すべての実習については、学内でPCR検査を行い、実習機会の確保に向けて取り組むなどウィズコロナに対応いたしました。また、ポストコロナを見据え、1年生の3科目（教育原理、法学、英語）、2年生の1科目（保健体育）につきましては、試験的にオンデマンド方式にて授業を実施し、成果・学生満足度等を調査し今後活かしてまいります。

②質の高い保育者（学生）の養成に向けて

2年生の実習指導に関して3コースの習熟度別に授業を行い、その効果について検証し、次年度以降も継続実施することとし、「保育者のための文章表現」（1年生・通年科目）と実習指導の連携につきましても引き続き強化するなど、実習指導体制の一層の強化・充実に努めております。また、2021年度より新たにiPad購入補助制度を設け、新入生全員がiPadを保有し日々の授業で活用する新しい学びをスタートし、ICT化の進む保育現場に対応できるスキルを備えた人材の育成に注力するとともに、FD活動の活性化により教員のさらなる指導力向上にも努めました。

③学生の満足度向上に向けた取り組み

継続して卒業学年を対象に満足度調査を行い、学生のニーズを分析し満足度向上に努めました。教員や授業に関する満足度、事務局（実習・進路サポート室を含む）の対応に関する満足度は、コロナ禍の中ながら例年をやや上回る結果となりました。併せて新入生に対して実施している調査では、本学に対する期待や不安などを分析することで、きめ細かい学生サポート体制の構築を引き続き進めてまいりました。

④募集活動の強化

全国や南関東においても保育系の志願者は減少傾向が続いており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もありましたが、重点校との関係強化及び情報収集を行う「短期大学アドミッションオフィサー」を継続配置し、募集の柱となるオープンキャンパスにつきましても午前・午後に分散開催するなど情報発信に努め、定員を満たす入学者数を確保しております。更にSNSを活用した広報活動を展開し、ホームページと連携した結果、アクセス数が大きく増加しました。

⑤各種行事の実施状況

本学の特色である音楽を中心とした様々な授業成果の発表につきましては、学生の希望を取り入れつつ感染対策を講じながら可能な限り実施いたしました。着ぐるみ人形劇「ぐりとぐら」や「ウィンド・バンド」の公演を実施し、「短大ミュージカル」、「YOUKON」（幼児教育保育科コンサート）等は延期や規模を縮小して開催しました。「第九」公演、海外幼児教育研修などは安全面を考慮し、前年度に引き続き中止といたしました。

⑥高等教育修学支援制度の継続

大学と同様、2020年4月から実施された「大学等における修学の支援に関する法律」による高等教育無償化制度につきましては、確認申請書を提出し対象機関の認定を受け、制度の周知及び対象学生（家計急変者含む）の申請補助等を行い、学びの継続を支援いたしました。

⑦短期大学認証評価の結果について

一般財団法人大学・短大基準協会による認証評価（三回目）を受審し、基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果 基準Ⅱ 教育課程と学生支援 基準Ⅲ 教育資源と財的資源 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンスにおいて全ての評価基準を満たし、2022年3月11日付で「適格」との評価結果を受けました。

＜洗足学園中学校・洗足学園高等学校＞

①新型コロナウイルス感染症への対応

生徒本位の教育活動と新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組を両立し、併せて文部科学省・神奈川県ガイドラインを遵守してまいりました。

授業におきましては、質の高い学びを保証するため基本を対面授業とし、感染状況や自然災害により臨時にオンライン授業に切り替えるなど、常に教育活動を継続し、互いに切磋琢磨しながら学びを深める環境を作り上げてまいりました。また、入学式、卒業式も感染対策を講じながら挙行し、生徒達で作り上げた彩羽祭（文化祭）では、全ての生徒・教職員にQRコードを配付し管理を徹底することにより無事実施するなど、生徒が達成感を得ることのできる学びの多いプログラムを実施しております。

②教育課程について

新学習指導要領実施に向けたカリキュラムの検討を進め、2021年度入試から始まった大学入学者選抜改革への対応をより強力に推進していくため、カリキュラムを変更いたしました。英語4技能（「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」）への対策として「スピーチコミュニケーション」を文系必修とし、また、生徒の学力向上に伴い「国語基礎特講」等の基礎講座を廃止し、より思考力・表現力・判断力を高める授業を充実させるとともに、新たに「論文特講」を設けております。また、生徒の更なる学力向上のため、コンピテンシー測定を導入し、評価方法についての研修会を実施いたしました。

③先進的な設備の整備

4年計画で実施してきた一人一台のChromebook所有計画が完了し、中学1年生から高校3年生まで全員が所有いたしました。これにあわせ教育効果の向上を目指し、全普通教室・特別教室にホワイトボード・プロジェクター（無線対応）を設置しICT教育用の教室へと全面改装し、リモート授業への対応として4K対応のハイビジョンカメラ3台、照明機材2基などを設置した洗足Studioを開設いたしました。また、図書室機能を見直

し、生徒の活動において重要な施設である図書室とカフェテリアの機能を向上すべく改修工事を行いました。

④教育活動と進学実績

STEAM教育として、最先端の科学分野の講演会や芸術分野のプログラムとして「SENZOKU ART PROJECT」を開催いたしました。また、教科横断型授業研究として数学と理科の「対数とPH」、国語、社会及び英語の授業としての「百人一首」など融合授業を実施いたしました。その他、哲学（道徳）プログラムを研究・実践し、ディベート教育、プログラミング教育などMinerva Seminarsにおいて関連講座を複数開設するなど幅広い知識を涵養し、世界に通用する人材育成を目指しました。進学実績につきましては、東京大学20名をはじめとして難関国公立大学、医学部への進学、またコロナ禍ではありましたが、海外大学へ進学する者も出ております。

⑤新教務システムの導入

2021年度より i) 情報の一元化 ii) データベース構築 iii) ペーパーレス化の徹底を目的に新たな教務システムを導入し、業務の効率化及び改善が図られております。

<洗足学園小学校>

①新型コロナウイルス感染症への対応

学校運営においては、基本的な感染症対策を実施（検温、消毒、マスクの着用、換気）し三密を回避し対応いたしました。児童に新型コロナウイルスの感染が拡大したことに伴い5月及び1月に休校措置を講じましたが、iPadを活用しオンラインにて授業を実施するなど、児童の安全を最優先に教育活動を継続いたしました。

②ICT教育と進学実績

iPadを活用した授業の質のさらなる向上のため、教員の研修会を開催いたしました。教員の自由な勉強の場としてICT_Caféを設け、またICT教育で有名な近畿大学附属小学校と交流する一方、資格面におきましては、専任教員全員がApple Teacherを取得し、更に、国内小学校においては3校のみとなるADS（Apple認定校）の継続認定（2022年再申請）に向け準備を進め、Appleの指定するOpen Dayでは、全世界の教育関係者へ最先端の授業を公開し、Apple公式サイトにおいてもアジアを代表する学校として取り上げられております。

また、iPadを個人保有とした最初の学年が本年度卒業いたしました。ICTを活用した教育は自ら調べる事が可能となり、主体的な学びが活性化され、男女共に多くの児童が御三家をはじめとした難関校へ進学する結果となっております。

③心の教育の充実

心の教育として「思いやりの心の育成」・「正しい倫理観の育成」・「情報モラル教育」この3

点を重点的に指導いたしました。様々な行事にて、上級生・下級生を一緒にすることにより「思いやりの心の育成」をし、併せてリーダーシップ教育を実施いたしました。また、道徳教育にて「正しい倫理観の育成」を目指し、話し合いや思考の深化をすすめる教育を実施し情報化社会における「情報モラル教育」の推進にも努めました。

④各種行事活動

学校の特色である小学校オーケストラの活動につきましては、2020年度延期となった夏の定期演奏会を指揮者に秋山和慶大学芸術監督を迎えて8月18日にサントリーホールにて開催いたしました。教員・児童のPCR検査など徹底した感染対策を講じ、保護者の協力を得て開催することが出来ました。また、児童の成長に欠かせない各種行事につきましても、延期や規模を縮小するなどして、その時々状況に応じて、学芸会、黒姫移動教室、運動会など実施しております。また、入学式・卒業式も規模を縮小しましたが挙行いたしました。

<洗足学園大学附属幼稚園>

①新型コロナウイルス感染症への対応

基本的な感染症対策を実施（検温、消毒、マスクの着用、換気）し、三密を回避する保育方法を実践し、食事時の飛沫防止対策や行事の時間短縮及び参加人数の制限など対策を講じながら可能な限り保育・行事を実施いたしました。

園児の安全を最優先し、感染者発生に伴い休園措置を8日間、学年閉鎖措置を合計3日間講じました。また、1学期の年少・年中の遠足は中止といたしましたが、規模を縮小しながら運動会、作品展など主要な行事を開催するなど可能なかぎりの対応をいたしました。

②多様な経験を可能とする新しいカリキュラム

新入園児から幼稚園教育要領に定められた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の実現を目指す従来のカリキュラムに加えて、園児用iPadや、AI機能を搭載したロボット（ラボット）を導入いたしました。また、芸術への興味・関心をはぐくむためアート積木、更に小学校と協力してサイエンスとして不思議おもしろ実験や英語であそぼうを保育に取り入れました。それにこれまでの音楽を加え、多様な経験の提供と考える習慣の習得を目指した保育を実践いたしました。

③ICTを活用した業務の効率化と保育の活用

教職員が園児や保護者に向き合う時間を十分に確保するため、教職員の組織を見直し、業務にICTを活用し、作業効率を上げるとともに、研修会として保育室に設置されたAppIeTVの活用方法や、Google研修を開催いたしました。またプレゼンテーションアプリKeynoteやお絵描きアプリSketchesSchoolなども保育に活用すべく研究を進めております。

④保護者ならびに外部への積極的な情報発信

保護者とは、毎日の登園・降園に合わせサイネージを活用し、日頃の園児の様子を動画にて配信しながらコミュニケーションを積極的にとり、強固な協力体制構築を目指す取り組みを行いました。また、見学会、説明会では例年並みの人数を集め、Apple TVなどを活用し新たな保育を体験するなど趣向を凝らし対応いたしました。

<施設・設備整備事業>

学園内における教育環境の維持・向上とともに、快適性を追求し、更に魅力あふれるキャンパス作りを通して学園の競争力を強化していくことを目的に計画された事業は全て予定通り行われました。また、追加で実施された事業を含め主な実施事業は以下の通りです。

①ブラックホール改修・空調設備更新工事

- ・ブラックホール空調設備更新工事
- ・ブラックホール改修工事（第2期）
- ・ブラックホールビッグマウス音響機器更新

②キッズスクウェア空調・衛生設備更新工事

- ・キッズスクウェア小体育館空調設備更新工事
- ・キッズスクウェア冷却塔・配管改修工事他

③キッズスクウェア MUSIC POOL CINO 照明設備工事

④エチュードステーション（E200・E400教室）改修工事

⑤中学校・高等学校教室（ICT化等）改修工事

⑥中学校・高等学校照明・消防設備等更新工事

- ・中学校・高等学校自動火災報知設備更新工事
- ・中学校・高等学校照明器具更新工事（LED化）

⑦中学校・高等学校防水・配管設備・外構設備改修工事

- ・中学校・高等学校教室棟屋上防水更新工事
- ・中学校・高等学校アトリウム・図書室雨水配管改修工事
- ・中学校・高等学校電動門改修工事
- ・中学校・高等学校中庭污水配管改修工事

⑧中学校・高等学校図書室・カフェテリア改修工事

⑨小学校自動火災報知設備更新工事

⑩幼稚園受水槽更新工事

<機器・機材整備>

法人本部システムの更新に着手し業務の効率化を図りました。また、ICT教育の推進に伴う環境維持のため、インフラ設備を更新いたしました。

①管理系（経理・人事）システム更新・ソフトウェア導入

②ネットワークインフラ関連機器更新

③eキューブサイネージ更新

④前田ホールグランドピアノオーバーホール・通信機器更新

<管理運営事業>

①ガバナンス・コードについて

2020年4月より改正・施行された私立学校法の改正趣旨を踏まえて、改正法第24条に規定する学校法人の責務を実効あるものとするため、理事及び理事会機能の実質化、監査機能の強化、評議員会制度の改善、情報の公表項目等の適正化などを目指して、洗足学園ガバナンス・コードの策定に取り組み、評議員会・理事会にて審議し制定いたしました。

②学園創立100周年に向けた取り組み

2024年の学園創立100周年に向けて、創立者前田若尾先生の教育理念のメモリアルとして、『洗足学園創立者記念霊園』を定めました。また、外部アドバイザーとともに100年間のランドスケープの変遷を映像と照明により3Dで表現することに着手し、創立者前田若尾の半生を描いたミュージカル公演の実現に向けて取り組みを開始しております。更に、100周年以降も各学校が発展すべく、ICTに加え芸術についてもテーマとして取り入れて学園の教育との融合を図る研究を進めております。

③防災体制の整備

防災体制の整備につきましては、2018年3月に川崎市洪水ハザードマップが改定され、これにより洗足学園溝の口キャンパスも浸水想定区域に新たに指定されており、防災計画を策定するなど順次対応しております。今年度は、川崎市からのキャンパス周辺の浸水予想データなどを基にBCP対策としてサーバー室の移設計画の策定に着手いたしました。

④安定した財政基盤の維持

学園の収入の基盤となる学納金収入につきましては、各学校目標とする募集定員を上回る志願者を確保し安定的に推移しております。競合する他校の経営情報等の収集・分析を行い、小学校、幼稚園の2022年度新入生を対象とした学納金の改定いたしました。

また、長期的な財政基盤の維持に向けて、学園全体の将来の校舎等建物建替えに備え長期財政計画に基づき、施設設備引当特定資産の組入計画を策定し、理事会にて審議・承認いたしました。

財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	33,049,447,764	40,798,581,203	40,583,571,710	40,452,192,740	42,652,713,796
流動資産	16,136,131,564	9,057,906,138	9,732,698,723	11,067,560,132	9,577,580,487
資産の部合計	49,185,579,328	49,856,487,341	50,316,270,433	51,519,752,872	52,230,294,283
固定負債	254,195,375	252,564,184	250,579,125	254,058,250	228,393,625
流動負債	1,719,381,476	1,744,765,150	1,765,004,030	1,979,425,823	1,970,519,001
負債の部合計	1,973,576,851	1,997,329,334	2,015,583,155	2,233,484,073	2,198,912,626
基本金	48,294,773,472	48,441,254,828	49,163,724,484	49,968,400,664	50,327,574,530
繰越収支差額	▲ 1,082,770,995	▲ 582,096,821	▲ 863,037,206	▲ 682,131,865	▲ 296,192,873
純資産の部合計	47,212,002,477	47,859,158,007	48,300,687,278	49,286,268,799	50,031,381,657
負債及び純資産の部合計	49,185,579,328	49,856,487,341	50,316,270,433	51,519,752,872	52,230,294,283

イ) 貸借対照表関係比率

(%)

	比 率	算 式 (*100)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	938.5	519.1	551.4	559.1	486.0
2	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	4.0	4.0	4.0	4.3	4.2
3	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	1322.8	750.5	790.7	839.4	740.3
4	基 本 金 比 率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
5	積 立 率	$\frac{\text{運用資産(特定資産+有価証券+現金預金)}}{\text{要積立額(退引+2号+3号+減価)}}$	101.3	104.2	102.3	104.4	105.6
6	運 用 資 産 余 裕 比 率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	2.6 年	2.8 年	2.7 年	2.9 年	3.0 年

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

収入の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学生生徒等納付金収入	6,503,858,628	6,684,835,549	6,802,758,656	6,894,997,647	7,129,867,012
手数料収入	91,986,150	86,085,350	106,156,650	94,921,250	109,543,250
寄付金収入	29,420,353	25,349,977	25,198,171	22,435,896	24,194,023
補助金収入	613,347,702	576,142,908	579,732,112	683,671,074	743,062,774
資産売却収入	3,039,884	3,634,306,565	1,602,064	5,130,040,190	3,569,598,714
付随事業・収益事業収入	184,198,710	178,772,503	174,360,021	120,718,403	205,205,846
受取利息・配当金収入	32,810,681	68,615,476	93,912,536	6,333,852	11,384,120
雑収入	33,356,580	34,025,416	45,034,833	23,442,634	33,528,550
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,216,855,430	1,201,732,130	1,224,085,452	1,311,722,702	1,284,122,702
その他の収入	45,432,224	55,935,211	64,073,480	4,777,596,496	84,863,978
資金収入調整勘定	▲ 1,252,554,693	▲ 1,239,923,985	▲ 1,234,852,422	▲ 1,237,265,781	▲ 1,325,619,403
前年度繰越支払資金	17,345,928,520	16,096,196,392	9,018,798,292	9,678,907,301	11,010,914,502
収入の部合計	24,847,680,169	27,402,073,492	16,900,859,845	27,507,521,664	22,880,666,068
支出の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
人件費支出	4,117,773,963	4,223,679,839	4,357,141,945	4,375,286,250	4,424,402,089
教育研究経費支出	1,061,879,174	1,062,214,195	1,222,996,847	1,376,427,620	1,462,700,487
管理経費支出	734,320,121	655,682,643	728,753,537	518,099,093	597,744,621
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	1,515,224,747	415,919,795	604,374,214	539,818,580	121,402,596
設備関係支出	227,434,733	185,475,672	232,639,712	386,571,097	343,371,898
資産運用支出	1,031,464,401	11,844,739,717	18,973,009	9,316,565,725	6,385,335,781
その他の支出	208,355,767	152,554,469	165,042,682	132,547,514	172,259,352
資金支出調整勘定	▲ 144,969,129	▲ 156,991,130	▲ 107,969,402	▲ 148,708,717	▲ 133,287,107
翌年度繰越支払資金	16,096,196,392	9,018,798,292	9,678,907,301	11,010,914,502	9,506,736,351
支出の部合計	24,847,680,169	27,402,073,492	16,900,859,845	27,507,521,664	22,880,666,068

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	7,435,240,694	7,584,651,703	7,733,083,443	7,839,417,998	8,242,264,760
教育活動資金支出計	5,913,973,258	5,941,576,677	6,308,892,329	6,269,812,963	6,484,847,197
差引	1,521,267,436	1,643,075,026	1,424,191,114	1,569,605,035	1,757,417,563
調整勘定等	▲ 63,617,950	▲ 18,007,927	▲ 46,217,554	128,461,459	▲ 45,430,066
教育活動資金収支差額	1,457,649,486	1,625,067,099	1,377,973,560	1,698,066,494	1,711,987,497
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	23,967,313	1,092,440	1,759,064	1,949,752	4,570,612
施設整備等活動資金支出計	1,742,659,480	601,395,467	837,013,926	926,389,677	464,774,494
差引	▲ 1,718,692,167	▲ 600,303,027	▲ 835,254,862	▲ 924,439,925	▲ 460,203,882
調整勘定等	▲ 27,002,445	20,163,694	▲ 4,364,955	6,234,282	361,460
施設整備等活動資金収支差額	▲ 1,745,694,612	▲ 580,139,333	▲ 839,619,817	▲ 918,205,643	▲ 459,842,422
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	▲ 288,045,126	1,044,927,766	538,353,743	779,860,851	1,252,145,075
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	76,615,757	3,729,788,149	141,266,211	9,890,392,400	3,651,187,566
その他の活動資金支出計	1,038,302,759	11,852,114,015	19,510,945	9,338,246,050	6,407,510,792
差引	▲ 961,687,002	▲ 8,122,325,866	121,755,266	552,146,350	▲ 2,756,323,226
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	▲ 961,687,002	▲ 8,122,325,866	121,755,266	552,146,350	▲ 2,756,323,226
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	▲ 1,249,732,128	▲ 7,077,398,100	660,109,009	1,332,007,201	▲ 1,504,178,151
前年度繰越支払資金	17,345,928,520	16,096,196,392	9,018,798,292	9,678,907,301	11,010,914,502
翌年度繰越支払資金	16,096,196,392	9,018,798,292	9,678,907,301	11,010,914,502	9,506,736,351

ウ) 財務比率の経年比較

(%)

	比 率	算 式 (* 1 0 0)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	19.6	21.4	17.8	21.7	20.8

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:円)

	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	6,503,858,628	6,684,835,549	6,802,758,656	6,894,997,647	7,129,867,012
	手数料	91,986,150	86,085,350	106,156,650	94,921,250	109,543,250
	寄付金	28,484,924	25,116,977	25,198,171	22,085,170	24,194,023
	経常費等補助金	593,355,702	575,815,908	579,575,112	683,504,074	742,912,206
	付随事業収入	184,198,710	178,772,503	174,360,021	120,718,403	205,205,846
	雑収入	33,356,580	34,025,416	45,034,833	23,191,454	30,542,423
	教育活動収入計	7,435,240,694	7,584,651,703	7,733,083,443	7,839,417,998	8,242,264,760
	事業活動支出の部					
	人件費	4,134,486,588	4,221,900,214	4,355,359,320	4,378,765,375	4,398,737,464
	教育研究経費	1,882,705,721	1,935,480,559	2,106,847,245	2,308,580,558	2,435,421,439
	管理経費	850,759,305	770,470,167	845,968,999	636,897,988	715,122,534
	徴収不能額等	18,244,000	6,288,750	10,738,000	0	0
	教育活動支出計	6,886,195,614	6,934,139,690	7,318,913,564	7,324,243,921	7,549,281,437
	教育活動収支差額	549,045,080	650,512,013	414,169,879	515,174,077	692,983,323
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	32,810,681	68,615,476	93,912,536	6,333,852	11,384,120
	その他の教育活動外収入	0	0	0	251,180	2,986,127
	教育活動外収入計	32,810,681	68,615,476	93,912,536	6,585,032	14,370,247
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
特別収支	教育活動外収支差額	32,810,681	68,615,476	93,912,536	6,585,032	14,370,247
	経常収支差額	581,855,761	719,127,489	508,082,415	521,759,109	707,353,570
	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	1,263,645	472,351,264	66,728,260
	その他の特別収入	24,996,444	3,670,685	10,120,241	8,952,732	2,956,100
	特別収入計	24,996,444	3,670,685	11,383,886	481,303,996	69,684,360
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	31,732,355	75,642,644	77,937,030	17,481,584	31,925,072
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	31,732,355	75,642,644	77,937,030	17,481,584	31,925,072
	特別収支差額	▲ 6,735,911	▲ 71,971,959	▲ 66,553,144	463,822,412	37,759,288
	基本金組入前当年度収支差額	575,119,850	647,155,530	441,529,271	985,581,521	745,112,858
	基本金組入額合計	▲ 1,579,919,860	▲ 146,481,356	▲ 722,469,656	▲ 804,676,180	▲ 359,173,866
	当年度収支差額	▲ 1,004,800,010	500,674,174	▲ 280,940,385	180,905,341	385,938,992
	前年度繰越収支差額	▲ 77,970,985	▲ 1,082,770,995	▲ 582,096,821	▲ 863,037,206	▲ 682,131,865
	基本金取崩額	0	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	▲ 1,082,770,995	▲ 582,096,821	▲ 863,037,206	▲ 682,131,865	▲ 296,192,873
(参考)						
事業活動収入計		7,493,047,819	7,656,937,864	7,838,379,865	8,327,307,026	8,326,319,367
事業活動支出計		6,917,927,969	7,009,782,334	7,396,850,594	7,341,725,505	7,581,206,509

イ) 財務比率の経年比較

(%)

	比 率	算 式 (*100)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	55.4	55.2	55.6	55.8	53.3
2	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経 常 収 入}}$	25.2	25.3	26.9	29.4	29.5
3	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	11.4	10.1	10.8	8.1	8.7
4	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	7.7	8.5	5.6	11.8	8.9
5	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経 常 収 入}}$	87.1	87.3	86.9	87.9	86.4
6	経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経 常 収 入}}$	7.8	9.4	6.5	6.6	8.6

2. その他

(1) 有価証券の状況

①総括表

(単位：円)

	当年度 (2022年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,500,338,418	2,608,402,758	108,064,340
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	372,031,125	366,509,094	△ 5,522,031
(うち満期保有目的の債券)	(372,031,125)	(366,509,094)	(△5,522,031)
合計	2,872,369,543	2,974,911,852	102,542,309
(うち満期保有目的の債券)	(372,031,125)	(366,509,094)	(△5,522,031)
時価のない有価証券	2,000,000		
有価証券合計	2,874,369,543		

②明細表

(単位：円)

	当年度 (2022年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	372,031,125	366,509,094	△ 5,522,031
株式	0	0	0
投資信託	2,500,338,418	2,608,402,758	108,064,340
貸付信託	0		0
合計	2,872,369,543	2,974,911,852	102,542,309
時価のない有価証券	2,000,000		
有価証券合計	2,874,369,543		

(2) 借入金の状況

該当なし

(3) 学校債の状況

該当なし

(4) 寄付金の状況

一般寄付	258 件	20,200,000 円
特別寄付	11 件	3,994,023 円
現物寄付	75 件	2,805,532 円

(5) 補助金の状況

国庫補助金	219,336,900 円
地方公共団体補助金	523,725,874 円

(6) 収益事業の状況

該当なし

(7) 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

該当なし

イ) 出資会社

関連当事者に該当する出資会社はなし

(8) 学校法人間財務取引

該当なし

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

大学の入学定員が増加したことにより学納金収入は増加傾向であるが、今後も学園各校の学生・生徒等の募集に努めていき安定を図っていく方針である。支出面においては、人件費比率が目標とする水準を維持しており、今後も予算統制の徹底を図る。学園の施設設備の維持に係る改修工事等は計画通り実施され、今後は大学新校舎建設についても計画通り進めていく。また、2024年の学園創立100周年に向けて準備を進めていく方針である。